

JOMF 派遣医師便り (2015. 9)

◆シンガポール◆

MERS ドリル

シンガポール日本人会クリニック

日暮 浩実

今年の4月から7月にかけて韓国で中東呼吸器症候群（MERS）が発生したことは記憶に新しいことと思います。36名の死者と186名の患者、隔離対象者は延べ1万人を越え、経済にも大きな影響を与えました。

ただ、この病気の感染力は、飛沫感染する季節性インフルエンザに比べると弱く、次々に人から人へ感染するという形にはなりにくいようです。その違いは2009年のインフルエンザは世界のどこの国も封じ込めが出来ず、日本でも推計2000万人もの患者さんを数えたことと比べると明らかです。ただ、発症すると死亡率が高いため、相応の対策は必要と思われるます。

韓国で起きたような事例は、このグローバル化の時代、いつでもどこの国でも起こりうると考えられます。そこで、シンガポール日本人会クリニックでは、院内感染を防ぐため、疑い患者さんの発生を想定した“MERS ドリル”を、去る7月29日に行いました。在シンガポール日本大使館にもオブザーバーを御願いし、貴重なフィードバックを頂きました。結果の一部を下記のようにまとめましたのでご報告いたします。

シナリオ別対応方法

以前（2007年）に当院で行った鳥インフルエンザドリルの経験に基づき、4つのシナリオに分けて解析し、当院としての対応方法を考えてみました。

シナリオ1：患者さん御自身が、疑い患者であると考え、その時点でクリニックにお電話を下さった場合。

このシナリオは、2次感染の危険が最も少なくなる場合となります。もしかしたらMERSかも？と思われたら、すぐに医療機関に行くのではなく、まず、医療機関にお電話をして下さい。そうすることで、2次感染を最小限に抑えることができ、医療機関も適切な対応が出来ます。医療機関ではお話に基づき、適切なアドバイスをいたします。

また、ご自身で救急車をお呼びいただくことも可能です。既に（呼吸）状態が悪い場合には電話番号995に連絡し、疑いの旨をお伝えして専用の公用の救急車（基本的には無料）をお呼び下さい。症状が安定している場合には6220 5298にお電話してください*。シンガポール保健省の救急サービスにつながり、私設の救急車（有料）をアレンジしてくれます。医療機関は、感染者はもちろん、疑い患者例を全てシンガポール保健省に報告するこ

とが義務付けられていますので、事例があれば、保健省から速やかに御所属の会社にも問い合わせがいくはずで、そこで御所属の会社は保健省と対応を協議することになります。

※状態が悪くない場合に公用の救急車を呼びますと有料になりますので、注意が必要です。

シナリオ 2：患者さん御自身が、疑い患者であると考え、当院受診目的で来院され、クリニック 1 階の玄関に設置してあるインターフォンからその旨を告げられた場合。

シンガポール日本人会クリニックでは、前述の鳥インフルエンザドリルの後、フィードバックに基づき、クリニック 1 階の入り口のガラス戸の外の壁にインターフォンを設けました。これを、御自身が鳥インフルエンザや MERS の可能性があることを、院内にお入りになる前に御知らせ頂くためにお使い下さい。お知らせいただければ、数分で、スタッフが階下におりてきて対応いたします。その間、患者さんは、備え付けのマスクを着用していただき、建物の外でお待ちください。その後は、屋外救急テントで感染防御をしたスタッフが、診察をいたします。その結果、必要があれば、上記救急車を要請します。成人の場合は、Tan Tock Seng 病院の Communicable Disease Center、小児の場合は KK Hospital に搬送させて頂くこととなります。

シナリオ 3：患者さん御自身が、疑い患者であると考え、当院受診目的で来院され、2 階の受付で、来院直後にその旨を告げられた場合。

この場合は、最優先で対応しますので、スタッフの指示に従ってください。その後の対応はシナリオ 2 と同様です。もし、その患者さんがマスクをされていなかった場合には、すぐにマスクの着用を御願ひすることになります。この場合、クリニックスタッフの一部は潜在的感染者となるほか、患者さんの症状によってはクリニックが一時閉鎖となります。

シナリオ 4：患者さんは、ご自身では疑い患者であることに気づかず、待合室で、通常通りに診察の順番をお待ちになっていた場合。

疑い患者さんへの対応は、最終的にはシナリオ 2 と同様になりますが、多くの場合、他に、たまたま居合わせた患者さんが、いらっしゃるはずですので、さらなる注意深い対応が必要になります。それは、たまたま、居合わせた患者さん、クリニックスタッフも多きが、潜在的な感染者となってしまうからです。この場合、シンガポール保健省からの指導で、潜在的感染者となった方々の名簿を作成することになります。潜在的感染者には自宅待機までは求められてはませんが、2 週間のマスク着用と体調監視が必要となります。(もちろん、最初の疑い患者さんが感染者でないとわかればその時点で対処は不要となります)。もし、少しでも症状がでた場合には、すぐにご連絡を頂くか、ご自身で上記電話番号 (995 または 6220 5298) まで御連絡していただくこととなります。尚、クリニックは消毒のため、当日は閉鎖となります。

特にこのシナリオ 3 や、特に 4 になることを回避すべく、シンガポール日本人会クリニックでは、ホームページや、院内の御知らせで広報し、マスク着用の御願ひをしています。皆様の御理解と御協力をどうぞ宜しく御願ひ申し上げます。

おわりに

韓国での感染は抑えられたものの、中東、特にサウジアラビアの首都リヤドでは感染の拡大が伝えられています。

この病気の感染様式は、まだ、解明されていない点も多いのですが、咳やくしゃみが感染を広める原因となることは、否定できません。この病気についての詳しい情報は日本の厚生労働省のホームページ内の中東呼吸器症候群（MERS）に関する Q&A などに詳しく解説されていますので、是非、御覧ください。2015 年 8 月末の時点で、疑いケースとは、＜過去 2 週間以内に中東に滞在したことがある方で、発熱、呼吸器症状があるケース＞となっています。実際には病気の程度は様々で症状には個人差があること、例外もあることをご承知おき下さい。

また、MERS 以外にも鳥インフルエンザなど警戒すべき疾患は他にもあります。地域によらず、少なくとも国外にお出になる時には、万が一に備え、常にマスクを携帯していただかずよう御願いたします。

そして、もしかしたら？と思われた場合には、ご遠慮なくご相談ください。